



都城市ALTカイルさん（アメリカ出身）紹介！

皆さん、こんにちは！私はカイル・ジョンソン、35歳です。アメリカのカリフォルニア州ロサンゼルスから来日して、8月2日都城市に到着しました。現在、中学校の英語のALT(外国語指導助手)として働いています。アメリカでは、小学校、中学校、高校で教えていました。小学校で教えた教科は主に英語、数学、体育、音楽、美術でした。アメリカの小学校の先生はよく複数の教科を教えます。私は付属の中学校や高校でも英語の先生として働き、バレーボールのコーチと図書館司書補佐としても働いていました。



趣味はスポーツをすること、映画を見ること、コンサート鑑賞、歌うこと、ギター演奏、演じることが好きで、中でも一番情熱を注いでいるのは演じることです。自分で歌を作ったり、劇場で演じたり、スタンドアップコメディ(即興話芸の一つ)とImprovisation(観客からのお題をもとに、作る即興コント)をしたりします。

8年間ロサンゼルスに住んでいましたが、出身は北アメリカの湖岸都市のシカゴ市です。シカゴ市は素敵な街で美しい建物や楽しい文化活動があり、人が成長する場所として、とても良い所です。しかも、シカゴ人は優しい性格で温かい雰囲気を作り出します。一方で、天気は大変過酷かもしれません。特に長くて寒い冬の間、シカゴ人はよく雪に埋まった車を掘り出さないとはいけません。

ロサンゼルスも素敵な街ですが、それは別の理由があります。アメリカ西海岸の州の中で一番大きい市で、海が近く、森や山々に囲まれています。市内は冬でも暖かいです。または同じ日に、朝は海にサーフィンへ出かけ、午後は寒い山でスキーをすることもできます。ロサンゼルスが一番よく知られている理由は恐らくエンターテインメントです。よくアメリカの演芸の首都と呼ばれています。なぜかという、あの街で沢山の音楽、テレビ番組、映画が作られ

ているからです。とても賑やかな場所です。

私はティーンエージャー(10代)の時に、ロスト・イン・トランスレーション(Lost in Translation)という映画を見ました。内容は、ある俳優が新しい映画を演じるためにアメリカから東京に来て、場違いな感じがする中、他のアメリカ人の友達を作るまでの話です。この映画を見た私はすぐに東京へ行きたくなり、ネオン埋めくこの街を見たいと考えましたが実現するのに10年以上かかりました。2018年、ついに東京と京都を旅行することができ、どの瞬間も楽しかったです。それほど楽しかったので、名所以外の違う日本を発見するつもりで2019年に3カ月間再訪することを決めました。ウーフ(World Wide Opportunities on Organic Farms/WWOOF「世界に広がる有機農業の機会」)という交流活動を通して、広島県、熊本県、そして長野県で日本人の家庭にホームステイしました。また、1カ月間、鹿児島県の学校でボランティアをしました。この3カ月間は私の人生で一番幸せな時でした。いくつかの一番の良い思い出は地元の農家の人と会話をしたり、温泉に浸かってリラックスしたり、高野山の宿坊体験をしたりしたことです。



これまでは大きい都市のみに住んでいましたので、日本に住んでいる間、違う経験をしたいです。家から1キロ歩くだけで、いつの間にか自分が田畑に囲まれているのを嬉しく思います。都城の暮らし方やここに暮らす人たちについて、もっと詳しくなるのを楽しみにしています。



～協会からのお知らせ～

一般社団法人都城国際交流協会

第2回臨時総会の開催について

令和5年度の異動等により、本協会役員4名の方から辞任の申し出があり、新しく役員を選出する必要があります。役員就任には総会での承認をいただく必要があります。令和5年度第2回臨時総会を下記の日程で開催いたします。お忙しい中、ご迷惑をおかけしますが、ご出席のほどよろしくお願いいたします。

なお、総会終了後、アメリカ、中国、モンゴルの都城市国際交流員による、出身国の紹介をいたします。

1. 開催日時 令和5年10月6日(金)
14:00～15:30
2. 場所: 都城市役所 北別館2階 共有会議室
3. 審議事項 理事及び監事就任の承認について
4. 各会員へ第2回臨時総会出欠回答書を送付します。
第2回臨時総会への出欠は、電話、FAX、メール等でもお受けいたします。

～外国人のための生活安全交流会！～

都城市高崎町に住んでいる日本人と一緒に、楽しく、日本で安全な生活をするための勉強をします。

対 象: 都城市に住んでいる外国人とその家族

日 時: 2023年10月22日(日曜日) 10:00～12:30

場 所: 都城市 高崎地区公民館 2階 大会議室

内 容: ・ 都城市のゴミの出し方、分け方
・ 交番(警察)の人の話し

*英語、中国語、モンゴル語、ベトナム語、ペルシア語
(またはダリー語)の通訳がいます。

参加費: 無 料

定 員: 15人(先着順)

申し込む方法: 2023年10月13日(木曜日)までに、電話かメールで都城国際交流協会に申し込んでください。

①名前 ②住所 ③わかる言葉(上の通訳の言葉の中から選んでください) ④メールアドレスを教えてください。

申込み: 電話、FAX、E-mailで(一社)都城国際交流協会(MIA)まで



～国際交流ナイト 楽しく交流しよう！～ (20歳以上対象)

食事をしながら、都城市や都城近隣に住んでいる外国出身の方と交流するイベントを開催します。

日 時: 11月18日(土) 18:30～20:30 (開場18:00)

会 場: 中町フードホール

(都城市中町17-9 シネポートビル1F)

内 容: このイベントのメインは、地域に住む外国の方との交流です。世界についてのクイズやゲームも少しだけ予定しています。

対 象: 20歳以上の方

定 員: 20名(会員優先・先着順)

参加料: MIA会員2,500円、一般3,500円

オードブル料理と2時間飲み放題が付きます。さらに、外国のビール2本がついています。

※事前予約は受け付けていません。必ず事前にチケットをご購入下さい。

※先着順となっていますので、お早めにご購入ください。

※当日券はありません。

チケット取扱い: (一社)都城国際交流協会(MIA)事務局

問合せ: 電話、FAX、E-mailで(一社)都城国際交流協会(MIA)まで





モンゴルの番犬

～都城市モンゴル国際交流員 ヒシゲさんによるモンゴル紹介～



騎馬民族であるモンゴル人にとって、番犬は馬と同様に最良の友であり、家族でもあります。モンゴルの番犬をバンハルと言います。家族に対する愛情が深く、警戒心が強いバンハルは外敵から家族や家畜を守るための忠犬です。純血種のバンハルはチベット血犬(マスティフタイプ)によく似ていて、体高60～80cmで、体重は45～70キロもする大型犬です。全身は黒毛ですが、マズル(口のまわりから鼻先にかけての部分)、胸、足先にオレンジの毛が混じっています。目の上に眉毛のような模様があるため、モンゴルバンハルの特徴は

目が四つあるとも言われます。

知らない人や騎乗の人に対して猛然と吠えます。寒さに強いですが、暑さには弱いです。

遊牧民は「バンハルは他の動物と違って、人間と同じ精神を持っている」と信じています。しつけが難しいですが、一度覚えたら忘れない能力を持っています。

モンゴル人は「犬は人に生まれ変わる」と信じているので、バンハルが死ぬと尻尾を切り取り、神に近づけるように山頂か丘の上に埋葬します。



日本人がハチ公を愛するのと同様に、
モンゴル人はバンハルをとっても愛しています



大切なこと

～都城市アメリカ国際交流員 セスさんによるアメリカ紹介～

先々週、祖母と私の愛犬が亡くなりました。そのため、日本とアメリカの家族関係を巡って、考えたことがあります。どんな文化の違いあるのでしょうか?この記事で、自分が学んだ事を紹介したいと思います。

まず、皆様は日本についてはご存知でしょうが、アメリカと比べるために少しだけ紹介します。

日本は、お墓参りがありますね。一番大事なことは決まった墓に戻ることでしょ?日本人は海外に住んでも恐らく決まった墓の場所に戻るの日本の習慣です。元々、神道に関係あるからです。神道には、空間が大事なのです。例えば、玄関や道場に入る前に靴を脱いだり、お辞儀をしたりします。理由は、使った空間を尊敬すべきだからです。それで、玄関の綺麗さを保つために先に靴を脱ぎます。道場は、建物と床を使える機会を頂いたことに感謝しますので、尊敬を示すためにお辞儀をします。

一方で、アメリカでは?

アメリカではお墓参りなどありません。何故かという、空間が大事な事ではないからです。誰かが亡くなった時に、葬儀を行うだけです。恐らく、葬儀が行われた墓地に二度と戻りません。たまに、非常に悲しくなれば、お墓に参りますが、習慣ではありません。それは、それぞれの人の決まりです。十人十色ですね。だって、墓に参れば、もっと悲しくなるでしょう?でも逆に、お墓に参れば、さよならと言えます。泣いたりしている間、亡くなった人に最後の言葉を言えます。

空間や場所よりも、気持ちが大切なのです。心を込めて、自分のやり方で、悼み悲しみます。英語圏でよく使う表現の

一つは「They will always be with you in your heart」です。意味は「亡くなった人は、愛された人の心に永遠に生きる」です。なので、どこに引っ越しても、せめて愛の気持ちが残っていれば、亡くなった人に繋がっています。この観念は本来キリスト教を基に作られました。天国に住んでいる人に地球に住んでいる人は誘導されているという事です。現代は、あんまり関係がなさそうです。

例えば、自分の祖母と犬の場合にも、最高の思い出をいっぱい作り、思い出を考えることで、今でも祖母と犬の愛が感じられます。

祖母と愛犬「コーディ」、心より感謝します。毎日恋しいですが、沢山の一番幸せな思い出を作ってくれて、感謝しています。



大の親友、12年間ありがとう!

「外国人が見た宮崎」作品募集！

宮崎県内在住の外国人、または外国にルーツのある方々の作品を募集しています。皆さんの心温まる作品をお待ちしています。

◇応募資格：原則として宮崎県内に住んでいる外国人、または外国にルーツのある方。

◇テーマ：「宮崎」

◇部門：写真、絵画、書道、手工芸（動画は除く）

◇出品点数：各部門1人2点以内 ※参加賞

◇作品提出先：（公財）宮崎県国際交流協会

◇応募締切：10月13日（金）

◇応募方法：宮崎県国際交流協会へ郵送、持参、またはE-mailで。

サイズ規定など詳しくは、宮崎県国際交流協会をホームページをご覧ください。

Tel: 0985-32-8457 Fax: 0985-32-8512

E-mail: miyainfo@mif.or.jp

**編集部より**

国際交流員の河連英さんとお話したときに、中国ではビールを常温で飲む人が結構いるということを聞いて驚きました。中国では、できるだけ冷たいものを体の中に入れない文化があるようです。日本では、耳の痛い人が多いかもしれないですね。私も、ビールはキンキン、焼酎はロック、冷蔵庫には2、3種類のアイスを常備という生活なので、反省せんといかんと思ったところでした。今度、常温のビールに挑戦してみようかな。

[徳留]

皆さん、こんにちは。

今月は『全国行ったつもりでぶらり旅コメント』お休みしますm(。)m
楽しみにしていた方は少ないと思いますが…(笑)

さて、なぜかという、皆さんはご覧になっていたでしょうか？モンゴルで大規模なロケがあり話題となったドラマ『VIVANT(ヴィヴァン)』の事を話さずにはいられなかったからです！！ストーリーはもちろんですが、モンゴルでのロケとあって、草原、砂漠、ゲル、ラクダや羊、ヤギ、きれいな夜空と街の夜景、余すことなく拝見させてもらいました！！素晴らしいです。

スフバトル広場やウランバトル市役所など行ったことのある建物や見たことのあるものが共有できるってこんなにうれしい気持ちになれると再認識しました(@_@;)(@_@;)

余談ですが、ちょうどドラマの第9話が放送されていたころ、ウランバトルからコンテンツ制作グループ「MOOD(モード)」の6人が本市を訪問していて、5日間ほど市内取材に同行しました。モンゴル語を長時間聞いていたせいでしょいか？日本語がモンゴル語に聞こえるという老化現象？が私の耳に起こりました、今は通常です…

[西畑]

国際化推進室にきて、お土産として色々な国のお菓子や食べ物をもらうことが多々あります。私がその中で一番好きなのはゴールデンゴビのチョコレートです！好きすぎて、もう一度に大事に取っておいてゆっくりと食べています。国際化推進室で働いてなければ、もしかしたら食べることはなかったかもしれません…そう考える度に、国際化推進室に来てよかったな～とお気楽に思っています(^o^)みなさんのお気に入りの海外お菓子はなんですか？

[川内]

8月に国際交流員CIRと外国語指導助手ALTで車椅子バスケットを体験してきました。これまで車椅子だと体の不自由な人だけのスポーツだと思っていましたが、実は健康者も一緒に楽しめるスポーツでした。ルールは一般のバスケットボールとほぼ同じで、両足の代わりに車椅子で移動するだけ違っていました。チームの構成ルールも面白かったです。車椅子バスケットの選手には障害レベルの重さによって1.0～4.5(健康者が4.5)までの持ち点が定められており、1チーム5人の合計は14.0を超えてはいけないルールでした。

都城の車椅子バスケットクラブ(WBC)の皆さんは毎週水曜日の夜、サン・アピリティーズで定期的に練習をしています。車椅子バスケットが九州一と言われている方も在籍しており、「車椅子を回す」のではなく、「車椅子で飛ぶ」という表現がもっと適切でした。初めての車椅子で、バスケットボールも初心者で、車椅子の回り方や、バスケットボールを高く投げられるコツなどを丁寧に教えてもらいました。プロから教えてもらったおかげで、人生初のシュートに成功し、その喜びは今でも忘れられません。最後はチーム対戦も行い、思い出に残る体験でした。

[かれん]

久々に英語の本を読む時間を見つけました。幼年時代にいつも手に本を持っていたのですが、大人になって、本を読む時間があまりないです。しかし、本

に愛があったので、私はよく他の生徒に「本ヲタク」と呼ばれていました。最近、もう一度その愛を見つけないです。でも、勘違いしないでください！大人になっても毎日読んでいますけど、子供の時と本の内容は違います。例えば、哲学、宗教の勉強、言語学に関係する本を読んでいて、結構硬い話です。読む時は分析的な脳で読みます。読んだら、カロリーを使い果たしてしまいます。アメリカでは大人になると、こういう学者向きの本以外はあまり読みません。

学者の本ではなければ、他の言語の本を読みます。例えば、スペイン語と日本語のファンタジー小説を読みます。日本語でも、哲学の本を読むこともあるから、また疲れていきます。なぜ、いつも難しい話について読んでいるのかというと、時間があれば、いつも上達したいからです。つまり、リラックスするのは苦手なのです。リラックスしながら、他の技能を上達させたいです。特に、言語の能力です。

しかし、最近、一つの事に気がきました。私達の脳は休憩しなければなりません。それは言うまでもないかもしれませんが、私にとってそれはかなり大変です。特に今の時代、私達は結構早い時間の中で生きていますね。だからこそ、たまの休憩は非常に大切です。とても面白い本で、寛いで、ゆっくりリラックスしてください。

最近の私のリラックス方は本を読むことです。子どもの時みたいに、竜とか魔法とかの話を読んでます。懐かしくて、とても楽しいです。子どもであるかのようにリラックスできます。本で別の世界に入りこめます。皆さんもリラックスできることを探してください！

[セス]

皆さん、サインバエノー！

まだまだ暑い日が続いていますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。今回は暑い夏を涼しく過ごせた話をしたいと思います。8月末に宮崎市で開催された「青島国際ビールフェスティバル」に行きました。92種類のビールが販売されていましたが、残念ながらモンゴルのビールはなかったです。5種類くらい飲んでみましたが、その中でベルギーのティママン・ピーチビールがとても気に入りました。フルーツの味をしていて、爽やかで美味しかったです。

[ヒシゲ]

今年も霧島市ミヤマコンセールで行われた霧島音楽祭に行ってきました。今年は第44回。音楽監督は東京サントリーホール館長の堤剛氏です。この音楽祭から演奏家も多く育ち、世界で活躍しています。堤氏はチェリストで今年81歳、今も現役です。今回も何度かステージに立たれました。他の演奏家の演奏も客席で身動きもせず、聴いておられるのが印象的でした。まだまだ演奏を続けてほしいと思ったところでした。

[藤元]

またいつか開催したいトリビアナイトに向けて、自宅でビールの下調べに勤しんでいます。毎日ではありません。週末だけ、それも多量ではありません。一生懸命、自主学習をがんばります！

[迫田]

9月1日は、モンゴルの新学期で、8月末からみんな準備で忙しくなる時期です。ちょうどその頃モンゴルのSNSで、ある動画を見ました。遊牧民の娘さんが大学生になり、地方から首都ウランバートルへ行く前に、実家の馬(10頭以上)の額にチューをして、「勉強、頑張るから、元気だね」と言って愛情たっぷり馬を撫でていました。「行っていらっやい」、「早く、帰って来てね」、「お気をつけてね」と言わんばかりの馬の目も美しかったです。

[ソヨ]